

明治元年十二月二十三日より明治元年十二月廿六日まで

P8310808right

買入品のため両度他出、節分(※)に付蕎麦を喫す、旅亭より人をして寓居□す賀銀を遣す

廿三日寅 陰

江連来る、□話時を移す、鶏街へ行き結髪を頼む、歳暮使差□の約也、沼津より

五郎来る牛肉、鮓等携う泊宿

廿四日卯 陰午時より雨

五郎儀、保三全家着賀並西を問度趣に付、案内旁同道、途中にて分る、西は不在にて

空敷むなしく帰る、旅亭年糕を搗(〇)くとして「稲※2」汁糕を贈り越す、鶏街(※3)同断に付、

太郎□招待の

約あり大助同道にて行く、近辺出行私事を弁ず、野口拳家三人来り東京産

海苔分二小品持来、上総家眷(※4)より一□品(ラシヤ羽織地)書状、叔母よりの状も届く、旅亭

へ歳

P8310808left

暮賀として鯛一尾両婢へ銀一朱を遣す、五郎猶泊宿

廿五日辰 雨終日終夜

広沢来る、山本より(道中)旅籠代志らべ書差越す、渡辺へ行き右志らべ書付を廻し、且上総より

家眷よりの雁書を届る、五郎蒲鉾分一品を贈る、猶泊宿

廿六日巳 晴

旅亭より椎菌山葵一□太郎へ糕一重を贈り越す、一昨の酬□か、五郎帰る、渡辺来る

道中人馬遣代金八円一方を返却す、大助序に任せ鶏街へ上総家眷よりの一□鍬児□

の一□分に東京某受取書三枚を届け方托し遣す、富沢へ道中筋茶代割合銀を返し

且家内へ歳□、品遣す、太郎短冊差出様廻状到来□場丁石尾銃(高田屋方)次郎方へ持来廻達

*1:節分、昔は立春立夏立秋立冬の前日を節分としたようです。4回あります。

*2:「稲」表記は食へんに稲のつくり部分よりなる漢字で現在は使用していない漢字

*3:鶏街は鶏衛とも読める(結髪を依頼する場所?)

*4:家眷(かけん) 同じ家の人

□印は解説未了の文字です。私の実力ではすぐ解説できません。
搗く